

# 旧丹波屋旅館のこれから



写真：旧丹波屋旅館の様子

旧丹波屋旅館は小頓別地区の国道275号線沿いにある和洋混合の木造建築で、国の登録有形文化財に登録されています。現在、築100年を超え深刻な老朽化が進んでいる旧丹波屋旅館を未来に残すための活動が行われています。

## 旧丹波屋旅館の歴史

大正3年に旧天北線小頓別駅の完成と同時に「松尾旅館 小頓別支店」として開業しました。昭和3年に洋館が増築され、昭和43年に経営者の変更に際して「丹波屋旅館」と旅館名を変更しました。その後しばらく営業されていましたが、平成元年にJR天北線が廃線されたことに伴い旅館としての営業を終了し個人宅として引き継がれ、所有者であった故岡崎繁雄さんが維持管理を行ってきました。平成12年には「旧丹波屋旅館和館・洋館」として国の登録有形文化財に登録されました。平成25年に地元の有

志による「旧丹波屋旅館保存会」が発足し、令和2年に今後の本格的な建物の保存活用を進めるため「NPO法人旧丹波屋旅館保存活用プロジェクト」が設立しました。建物は現在、NPO法人旧丹波屋旅館保存活用プロジェクトが所有・管理を行っています。

## 今までの活動

NPO法人旧丹波屋旅館保存活用プロジェクトは、セミナーや「あなたの丹波屋コンテスト」、写生大会の開催などを通じて、旧丹波屋旅館が国の登録有形文化財であることを知ってもらうための活動や、より永く旧丹波屋旅館を残すための取り組みを行っています。令和3年に開催された写生大会では、町内外から多くの人が集まり旧丹波屋旅館を描きました。令和4年に開催された「あなたの丹波屋コンテスト2022」では、写真や俳句、切り絵や歌など合計12作品の応募がありました。優秀賞を受賞した作品は小頓別郵便局に展示されています。





### クラウドファンディングの実施

旧丹波屋旅館の保存活用を行うためには、建物の大規模な改修・修繕が必須となります。令和5年9月20日から令和5年11月10日までの期間で、将来的な建物改修工事にあたり、改修計画を検討・策定するための前段として必須となる「建物全体の既存状況の調査及び耐震診断費」を集めるためのクラウドファンディングが行われました。目標金額350万円のところ、支援総額403万5千円、支援者198人と多くの支援が集まり目標を達成しました。

### プロジェクトの展望・ビジョン

最終目標は「旧丹波屋旅館」を未来に残すために大々的な建物の改修工事を行い、建物を使用できる状態に蘇らせることです。建物の改修工事を行うことで、現在使用できなくなっている建物の安全性の担保、既存設備の更新、建物の断熱改修を行い、建物をカフェや地域のコミュニティスペース、商品販売、ギャ

ラリー、コワーキングスペース、レンタルスペース、簡易宿所（民泊）等に展開させ建物を活用することで、建物の保存と小頓別地区の活性化を目指したいと考えています。

### 今後のスケジュール

昨年12月19日から21日の3日間建物内外の詳細調査が行われ、建物各部の寸法の計測や、建物の劣化状況を調査しました。調査により、建物が正面から見て左側に傾いていることが数値で確認できました。今後調査結果をもとに建物の図面をまとめる作業が行われ、3月末に向けて再調査と今後の方向性について検討が進められます。



小頓別郵便局での展示の様子。写生大会の作品も飾られています。